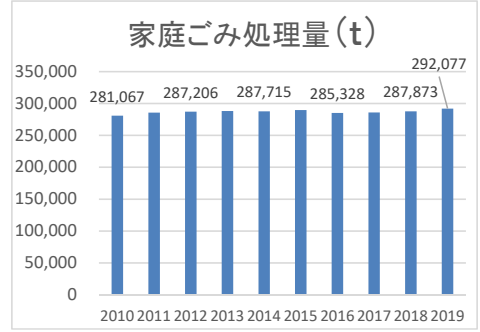
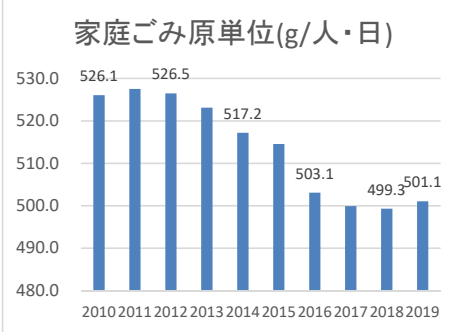


将来推計の流れ

- ① 人口の将来予測
  - ② 現行施策の継続に人口予測を加味したごみ処理量を推計（1次推計）
  - ③ 新計画によるごみ減量施策を行った場合のごみ処理量を推計（2次推計）
  - ④ 1次推計と2次推計から将来のごみ処理量を推計
- 今回

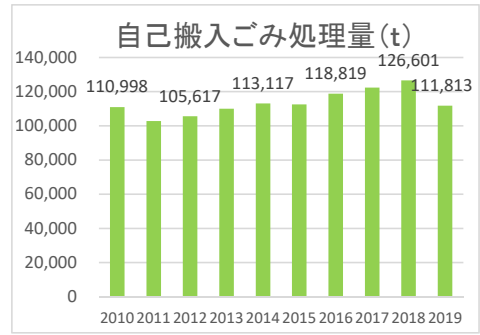
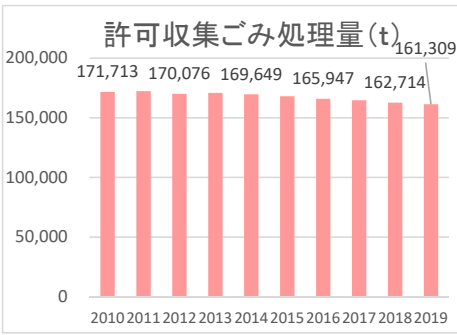
1. 現状分析

(1) ごみ処理状況



- ・市民一人当たりの家庭ごみ排出量は減少傾向である。
- ・内訳としては、夜間収集ごみの原単位は減少しているものの、その減少幅が小さくなっており、粗大ごみの原単位は一定の増加傾向を示している。

- ・人口が増加している中、市民一人当たりの家庭ごみ排出量が減少しているため、家庭ごみ処理量は横ばいとなっている。

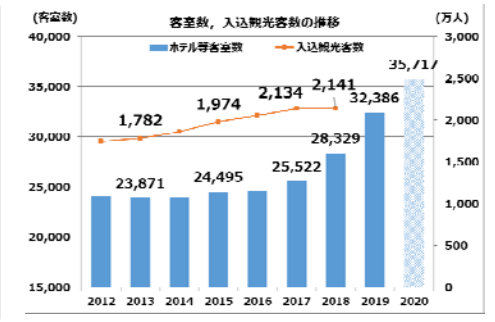
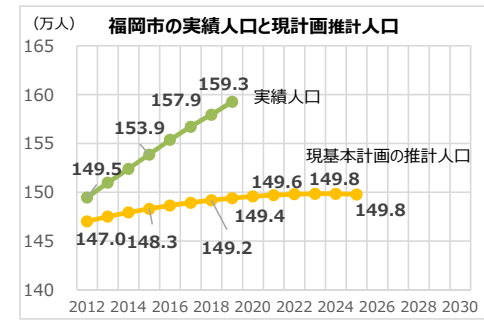


- ・事業所数は増加している中、企業の環境意識の向上や以下の資源化への誘導策等によりごみ処理量は減少傾向である。
- ・事業系ごみの定期収集手数料の改定（減免制度の段階的廃止及び重量制の導入）
- ・「事業系ごみ資源化推進ファンド」を創設し、事業者の資源化に向けた取組みを支援

- ・2018年度までは建設系廃棄物の増加等の影響で増加傾向である。
- ・2019年度は施策により減少している。
- ・産廃受入範囲の見直しによる搬入規制（2019年4月）
- ・木くずの搬入規制（2019年10月）

(2) 福岡市の特性

- ① 今後も続くと想定される人口増加
- ② 観光・MICEによる交流人口の増加



出典:「福岡市観光統計」

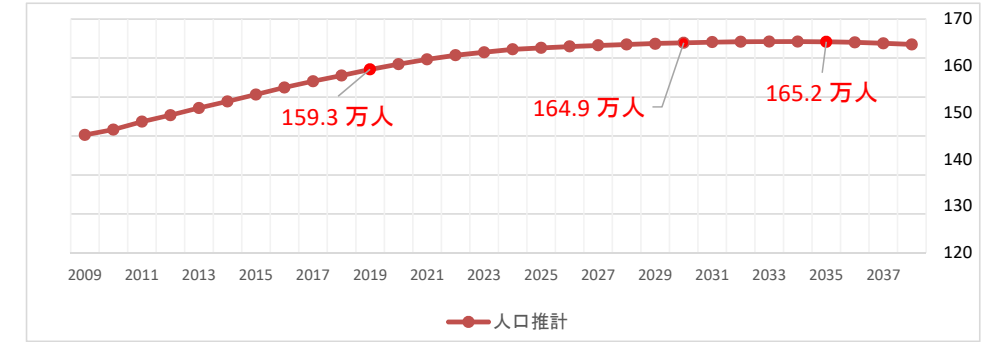
③ 好調な経済状況による事業所数の増加



出典:「福岡市市民経済計算」「福岡市税務統計」

人口や事業所数の増加、経済状況の好転等の要因がある中で、これまでの市民のリサイクルへの取組や減量施策の効果により、ごみ処理量はほぼ横ばい程度に留まっている。

2. 人口の将来予測

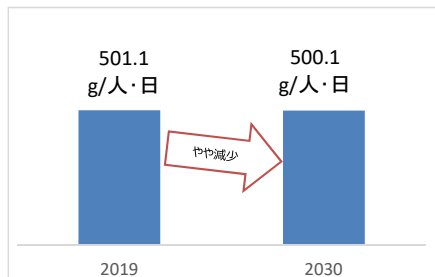


- ・人口推計
- ・福岡市総合計画の推計に直近の実績を加味して予測。
- ・福岡市の人口増加傾向は徐々に鈍化し、2035年頃の約165万人をピークに人口は減少に転じると予測。

### 3. ごみ処理量の一次推計

#### (1) 家庭ごみ

・前述の人口推計と市民一人当たりのごみ排出量を用いて推計



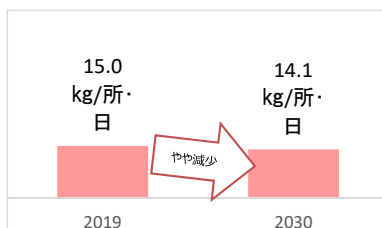
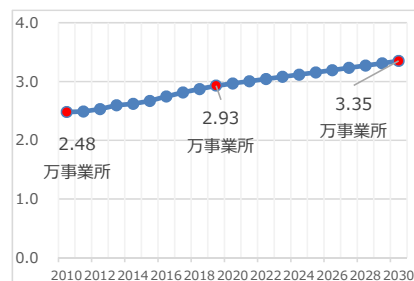
**・家庭ごみ原単位**  
市民の努力により減少していた夜間収集ごみの減少幅が小さくなり、粗大ごみの増加が続いていることから、減少傾向が緩やかになり、ほぼ横ばいになると見込む。

#### (2) 事業系ごみ

・事業系ごみは、許可収集ごみが減少傾向、自己搬入ごみが増加傾向にあることから別々に推計。

##### ① 許可収集ごみ

・契約事業所数推計と1事業所当たりのごみ排出量を用いて推計



**・許可収集ごみ原単位**  
資源化への誘導等により1事業所あたりのごみ処理量は減少傾向であるが、減量効果は次第に低下し、原単位の減少傾向は緩やかになると見込む。

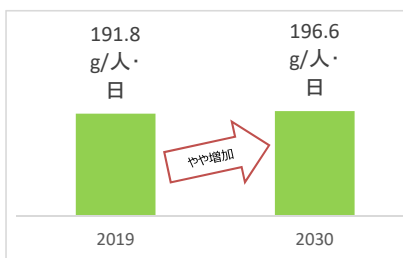
##### ・契約事業所数推計

・近年の増加傾向が一定程度続くものと見込む

##### ② 自己搬入ごみ

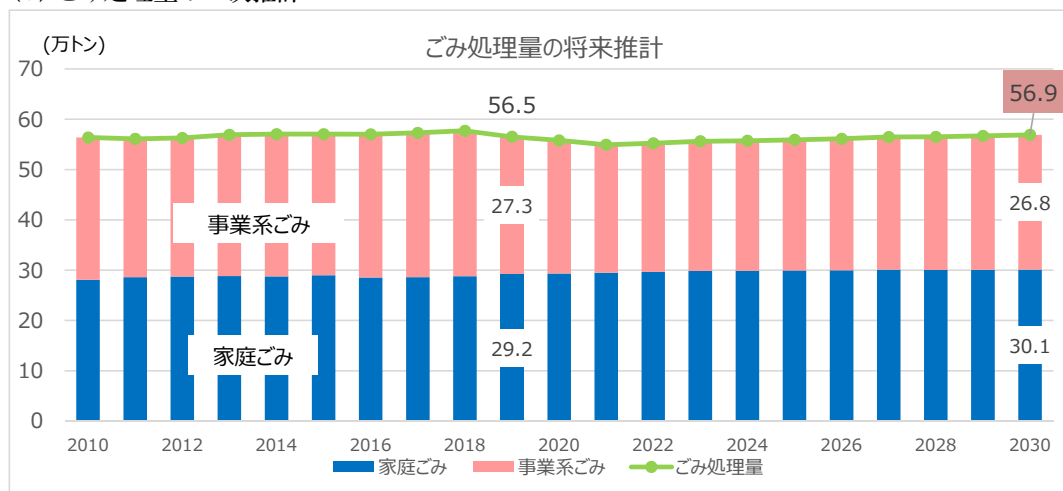
・自己搬入ごみは事業所数の増加ではなく、搬入実績等から主に建設系廃棄物の増加によるものと考えられる。

・建設系廃棄物は人口増加により、リフォーム等の需要が今後も高まることから考えられるため、前述の人口推計を用いて推計



**・自己搬入ごみ原単位**  
市外産廃や木くずの規制により2019年度は減少しているが、規制の効果は短期的であることから、今後は緩やかに上昇すると見込む。

#### (3) ごみ処理量の一次推計



##### ・家庭ごみ処理量

人口増加によりやや増加すると見込む。

##### ・事業系ごみ処理量

2020年10月から始まる古紙の分別区分追加の効果で減少後、契約事業所数増加等の影響で増加傾向に転ずると見込むが、10年単位で見ると減少する。

##### ・全体

家庭ごみは増加し、事業系ごみはやや減少することから、全体では2019年度に比べて増加すると見込む。

### 4. 新型コロナウイルス感染症の影響

#### 新型コロナの影響について

|       | 4~7月 | R1      | R2      | 増減      | 前年比     |
|-------|------|---------|---------|---------|---------|
| 家庭ごみ  |      | 100,327 | 107,518 | 7,191   | +7.2%   |
| 可燃ごみ  |      | 92,492  | 97,705  | 5,213   | +5.6%   |
| 不燃ごみ  |      | 5,737   | 7,219   | 1,482   | +25.8%  |
| 粗大ごみ  |      | 2,098   | 2,594   | 496     | +23.6%  |
| 事業系ごみ |      | 95,568  | 75,422  | -20,146 | △ 21.1% |
| 合計    |      | 195,895 | 182,940 | -12,955 | △ 6.6%  |

##### ・家庭ごみの増加

持ち帰りやデリバリーの活用が増えることで包装紙等の可燃ごみが増え、自宅での飲料の消費が増えることで不燃ごみが増加していると考えられる。

##### ・事業系ごみの減少

事業活動の自粛により減少していると考えられる。

・今後、ごみ処理量の二次推計を行う際に、影響について評価し、反映させていく。